

山は健康の源(19)

トシのこと、ボケのこと

遠足倶楽部の中で、「マダラボケ」という言葉が流行ったのは十数年以上も昔の話だと思う。遠足倶楽部というのは、無名山塾にいくつかあるプログラムの中の中老年バージョンで、日本百名山や熊野古道をめざす教室だ。1983年にスタートしたので、30年経った現在では年配の会員が多い。

「マダラボケ」を流行らせたのは、T会員、1928年生まれ。山道を歩くときの足取りの軽さといったらない。妖怪だ。

初夏に吾妻線沿線の王城山と岩櫃山に登った。JRの車内でも宿に入ってから、話題はトシのこと、ボケのことで盛り上がる。王城山はどっしりした大きな山、岩櫃山は峨々たる岩山で下から見上げたときは、追い返されそうにとんがっていた。いざ取り付いてみるとクサリもしっかり取り付けられていて、不安なく登れて達成感を抱かせてくれる岩山であった。

この二日間、Uさんが奥さまと二人で参加して下さった。宿の朝食は栗の入った赤飯だった。「明日がぼくの誕生日なんですよ、前祝いですね」とうれしそうだった。お元気な後期高齢者である。一人でジリからベースキャンプまでエベレスト街道を歩いたり、5000mのトロンパスを越えるアンナプルナ山群周遊トレッキングをやってしまう。

「山の遠足」に参加されると、たいていの場合、男性では最高齢であることが多いのに、この日はUさんより年上のSさんが参加されていた。総勢

岩崎 完郎



七名のパーティであったが、ぼくとカメラマン、Uさんの奥さんを除くと、一番若いのがUさん。だからというわけではなく、もともとフットワークの軽いUさんなのだ。宿に入るとお茶を入れて、皆さんに配ってくれていた。そして再び、ボケの話。

「先日、さあ出かけようと思って立ち上がって、お財布をバッグに入れようと思ったらないんです」と、Tさん。テーブルの上、テレビの上、タンスの引き出し、心当たりをあちこち捜してもない。朝からの行動を振り返ってみようと思ったの、とおっしゃる。「Gさんが乾燥イモを送って下さって、留守にするときは冷蔵庫に入れておいてね、というメモがあったので、それを冷蔵庫に入れた。もしかしたらと思って冷蔵庫を開けたら、乾燥イモと一緒に財布が冷やされてそこにあったんですよ」

皆さん、大笑い。

「岩崎さんと一緒に歩きはじめた頃はマダラボケだったけれど、今ではもうベッタラボケね」との言に、またまた大笑い。

ぼくのボケバナシとして、「タバスコかけた？」をご披露した。先日、近くの洋食屋さんにかみさんと昼飯を食べに入った。スパゲッティ・ミートソースを頼んだ。





スパゲッティが大好きである。家族で初めてスイスアルプスハイキングに出かけたときのこと。ハイキングの途上、あるいは街中でレストランに入る。メニューが横文字でなにがなんだか分からない。「パスタ」と書いてあるのだけは読めるし、料理も分かる。で、パスタを注文する。分かるのはそれだけだから、毎回注文するのはパスタ。子供から「おうちのお昼はいつもスパゲッティばかり」と言われた。ギャフン、そんな暗い過去にもめげず、スパゲッティが大好きだ。

味付けはトマト系が好き。いつだったかドロミテでフェラータ(ロックハイキング)を楽しんだ後、現地ガイドの両親が経営しているロッジで食べたトマト系のスパゲッティはおいしかった。今でも忘れられない。

ナポリタンであれミートソースであれ、粉チーズをたっぷりまき散らし(カミさんから太る原因だと指弾される)、タバスコをバカバカ振りかけて食べるのが好きなのだ。

話を近くの洋食屋さんに戻す。スパゲッティを注文し、待つことしばしで目の前にお皿が置かれた。粉チーズをスプーンに山盛りすくってスパゲッティの上に振りかける。雪が降ったみたいだ。ちょっと黄砂に汚染されているような色合いではあるが……。なあってことを考えながらフォークの先にくるくる丸め込んで、パクッとくわえた。味がいまいちだなあ、待てよ、タバスコをかけ忘れたかな、と思って向いに座っているカミさんに尋ねる。「タバスコかけた?」「かけてないみたいだけど」、そっけない言葉が返る。

粉チーズをかける、タバスコをかける、フォー

クを取り上げてスパゲッティの山に先端を突っ込む、というおきまりの一連の動作なのになんで、「タバスコ振りかけの段」がすっ飛んでしまったのだらう。マダラボケの典型的な事例というしかない。

「岩崎さんもマダラボケがはじまりましたね」と、Tさんからグループ入り歓迎の辞を頂く。ベッタラボケの仲間入りをしないように注意するしかない。もし山登りに親しんでいなかったら、とうの昔に歩けなくなっていて、ベッタラボケどころの騒ぎではなかったであろう。お互い実年齢より十歳以上は若いと、ヨイショし合った二日間であった。

いわさきもとお
岩崎元郎

1945年3月、東京大井町に生まれる。東京理科大学中退。63年から69年まで昭和山岳会に在籍、登山の基本を学ぶ。無名山塾主宰、日本登山インストラクターズ協会理事長。ホームページ www.iwasaki-motoo.com

問合せ先

撰事務所 〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-53-8
TEL 03 (3942) 0087 FAX 03 (3942) 0392

※無名山塾及び遠足倶楽部 問合せ先

無名山塾 〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-39-2 フラット三栄1F
TEL 03 (3941) 3481 FAX 03 (3941) 3482

進化する Printing & Web Solution

～印刷とWebを最適に組み合わせ独自のソリューションを提案します～

 菅原印刷株式会社

〒111-0051 東京都台東区蔵前 3-15-1
Tel.03-5687-2211 Fax.03-5687-2310
e-mail.eigyosugawara-p.co.jp <http://www.sugawara-p.co.jp>

